

## 第 43 回 エクソンモービル児童文化賞

### 今江 祥智 (いまえ よしとも)

児童文学作家

#### ◆ 贈賞理由 ◆

今江祥智氏は 1960 年、『山のむこうは青い海だった』を皮切りに、『海の日曜日』などの長編童話を発表して本格的な作家活動に入る。盡きることを知らぬ発想の妙とユーモア、独創的な物語構成と言葉を自在に駆使した文体で、次々と斬新な長編・短編の創作物語を執筆し、わが国の児童文学に新しい風を送りこみ、数々の出版文化賞他を受賞。『ぼんぼん』四部作や『今江祥智の本』全三十六巻に結実させた。最近作『ひげがあろうがなかろうが』では、日本の児童文学に比類ない物語世界を築きあげた。さらに絵本や翻訳や評論の分野でも特異な才能を発揮して、読者を魅了し続けている。こうした氏の長年の成果と幅広い業績を高く評価するものである。

(児童文化賞 選考委員会)

#### ◆ 略歴 ◆

1932 年大阪市生まれ。同志社大学卒業。名古屋市の中学校教師を経て上京、児童書編集者の仕事のかたわら創作につとめる。『山のむこうは青い海だった』を皮切りに『海の日曜日』、『さよなら子どもの時間』、『子どもの国からの挨拶』などを出版。1968 年に京都に帰ってからは聖母女学院短大で児童文学を講じる。1981 年からは執筆に専念。『ぼんぼん』四部作、『写楽暗殺』、『マイ・ディア・シンサク』、『大きな魚の食べっぷり』、『私の彼氏』などの長編群のほか、『物語 100』、『ズボンじるしのクマ』、『日なたぼっこねこ』などの童話も数多い。1991 年までの作品は『今江祥智の本』(全 36 巻、理論社)にまとめられている。その後も『幸福の擁護』、『持札公開』、『ひげがあろうがなかろうが』など、評論・長編・翻訳・絵本などのジャンルでも次々に作品を発表している。最新刊は小説『お勘定!』。

#### ◆ 主な受賞歴 ◆

1967 年	サンケイ児童出版文化賞
1973 年	日本児童文学者協会賞
1976 年	野間児童文芸賞
1996 年	小学館児童出版文化賞
1999 年	紫綬褒章
2002 年	京都府文化功労賞
2005 年	日本絵本賞